

2006 大会プレイバック

<マスターズ甲子園2006・第3回大会>

重松清氏（直木賞作家）が応援団長就任
浜田省吾氏（シンガーソングライター）が大会テーマソングを提供
～ 15府県の地方予選大会から甲子園本大会に657名が参加～



第3回大会では、15府県の地方予選大会からの選抜された計16チームの代表校の657名と、甲子園キャッチボール参加者の162名、総勢819名が甲子園球場に集結し、811名のスタッフ・ボランティアが大会運営を支えました。

大会初日の開会式には、星野仙一大会名誉会長と重松清応援団長が出席し、大会名誉会長からの開会挨拶が述べられました。全選手819名を代表して、キャッチボール親子編に参加する親子3世代による選手宣誓でマスターズ甲子園2006が開幕、浜田省吾氏からの提供による大会テーマソング「光と影の季節」と、甲子園キャッチボール親子編・プログラムテーマソング「I am a father」を背景に、「代表OB試合」8試合、「甲子園キャッチボール一般編」、「甲子園キャッチボール親子編」が行われました。2日間・16代表によって行われた代表OB試合では、最年少18才から最高齢75才までの選手が甲子園を満喫。このうち、現役・OBを通じて甲子園初出場となるチームが3校参加（津名高校、大商学園高校、加治木高校）、全選手657名の中で613名（93%）の人が甲子園初出場を果たしました。甲子園キャッチボールには、延べ119ペアが参加、元高校野球関係者による「一般編」では兄弟、夫婦、かつての監督・部員を含む計40ペア、片方が元高校球児であれば参加できる「親子編」では、4才から80才の年齢からなる計79ペアが、甲子園球場でのフィールドオブドリームスを実現しました。

また、植草節で知られる植草貞夫氏による実況、元「甲子園への道」レポーターの丸川珠代氏や夏の高校野球選手権大会初代学生司会者の山内佑利子氏による司会、夏の高校野球選手権大会開会式行進でプラカードを担当した市立西宮高校プラカードOG26名のスタッフ等が大会をサポート。その他、高校時代にプラカードを担当できなかった市立西宮高校OGや、かつて甲子園に憧れたアナウンサー、審判員、チアリーダー等のスタッフもプレーヤーと共に甲子園デビューを実現しました。元高校球児とその関係者による世代を超えた野球同窓会が2日間にわたって繰り広げられ、第1回大会と第2回大会の成果が結実し、今後の継続開催に向けての礎が完成した第3回大会となりました。

